

高松市立栗林小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

よく学び よく遊び よく働く 子どもを育てる

「確かな学力の定着」「健やかな心身の育成」「心の豊かさの実践」

【本校の現状と課題】

- 「新体力テストの数値分析の結果」より男女とも、多くの学年で20mシャトルラン、ソフトボール投げ、反復横跳びの記録が低く、県・全国平均を下回っている。
- 運動場では児童が楽しそうに体を動かす様子が見られるが、1000人以上の児童数に対して、運動場の面積は狭く、全校生が気持ちよく体を動かして遊べる場所がない。
- 体育の授業では、体育館を4年生以下は2クラスずつ、運動場では3クラス合同で行う学年もある。同じ単元で授業を行うと、体育備品や消耗品が2倍以上必要になる。

【取組み】

遊ぶ場所の確保

- ・体育館や屋上や2階、3階テラスを開放して運動を行えるようにする。安全面の配慮として、教員が必ずつく、走らない、テラスや屋上での運動を縄跳び、長縄のみとする。
- ・運動場等での遊ぶ場所が明確になるように、各クラスに「栗っ子運動場の使い方」を配布し、教室に掲示するとともに、栗林スタンプカードにも一緒に綴じ、職員にも周知する。

体力向上プロジェクト

- ・2, 3学期に、「体力づくり月間」を設ける。2学期は11月に俊敏性、3学期は2月に持久力の向上を中心にペア学年での活動で楽しく体力づくりを行う。
- ・結果を視覚化することで、目標をもって取り組めるようにする。
- ・ボール投げでは、ボールに対する恐怖心を減らすために、柔らかいボールを採用し、授業を展開していく。
- ・委員会の活動で、様々な遊びを紹介し、多様な動きを高める工夫をする。

体育備品・クラス配当品の充実

- ・体育館や運動場だけではなく、屋上や中庭に鉄棒やジャンピングボードを置くなどし、体を動かせる環境を作る。
- ・業間休みと昼休みには、ボール倉庫を開放することで、運動場で児童が様々な運動に取り組めるようにする。
- ・柔らかいボール2つや長縄、マーカーコーンなどをクラスに配布し、いろいろな外遊びができるようにすることで、運動場に出て遊ぶ児童の割合を増加させる。

【目標】

- 新体力テストでは、20mシャトルラン、反復横跳び、ソフトボール投げの記録を県平均以上のクラスを増やす。
- 体を動かすことの楽しさを味わい、習慣として運動する子どもを育成する。
- 学校評価における児童アンケートの運動に関する肯定的な意見の割合を、80%以上にする。